

アクセルを踏むな、ブレーキを緩めよう。

ISOを組織の手に取り戻そう。ISOマネジメントシステム規格は組織が利害関係者の期待にどうこたえるか、そのための最低限の「常識・常道」の要求事項が書かれています。



今年の冬はすごい雪でした気候変動は身近になっています

新日本認証サービス株式会社 (NJC) はアイルランド認定協会 (INAB) から認定を受けている Certification Europe Ltd. (CEL) との提携により審査をしています。

トピックス・お知らせ

前回は休載となってしまった。あまりにも忙しいのは問題だと「アクセルを緩める」ことになりました。今まで審査制度の問題点を述べてきましたが、ISOって一体何なのかという本質が「審査」という制度によってゆがめられてきた部分があります。勿論、審査登録という「制度」のおかげで登録者は確かに増えてきたのでしょうか。

でも、これもひとつの区切りかもしれません。最近ではいろんな報道を見ても(このアイソスの記事もそうですが)「経営に役立つ」「経営に貢献」「価値ある指摘」などの文字が躍ります。言い換えれば如何に「経営に役立っていない仕組み」「価値ない指摘」が多いかの裏返しかもしれません。

審査員の募集に際しご応募いただきありがとうございました。

P-D-C-A

ISOの規格要求事項を逐条的に考えてはいけません。最初はP-D-C-Aでなくてもいいのです。

「考えは実現する」という言葉は経営者ならば同感と思われるでしょう。松下さんも、稲盛さんも、ナポレオン・ヒルもみんなおっしゃっている言葉です。

今、ISOは経営システムと盛んに言われていますが、経営は誰(ISOの俄かコンサルタントや審査員)に言われるまでも無く、経営者にとって「夢の実現」であり「夢の追求」なのです。経営者ならば「何を」したいかは漠然とであってもお持ちでしょう。

ISOの認証なんて忘れて、「顧客や利害関係者は、自分の会社になにを期待しているか」その期待にこたえるためには「何をすべきか」「どのようにすべきか」から考えてみませんか。

最初は「社長の道楽で、年明けや年度初めにはいつも何かお習字が貼ってある」と悪口言われたっていいから、「何かやりたいこと」を書きましょう。それが社長の「方針」なのです。

書いて皆の見えるところに貼ってください(ISOでは方針は文書化し、周知させると言っています)。

さて、やりたいことを書けばいいとは言っても、従業員や取引先はそれを見るのですから、それ相応のことが書いてないと恥ずかしいですよ。当たり前だから、ISOは「組織の性質、規模、目的、環境影響などに対して適切である」ことを要求しています。

要は「みっともないことは書けないよ」と親切に言ってくれているだけです。

さて、「何かやりたいことを書く」のですから、それを見た従業員さんは「どうすりゃいいんだい?」と思うでしょう。

書いた本人が分からなければどうしようもないですね。「方針」は実現しなければ意味がありません。実現する具体的な内容を「目標」と言ってもいいでしょう。

そう、ブレーキを緩めれば車(システム)は自然に前に進みます。



(榎崎建志)

新日本認証サービス株式会社

〒541-0053 大阪市中央区本町1-5-7 西村ビル704

電話 06-4964-6881 FAX 06-4964-6882 <http://www.njc-jp.com>

当社へのご連絡・この広告へのご意見は njc-cel@nifty.com へどうぞ



Certification Europe Ltd.

157 Thomas Street, Dublin 8, Ireland